

文化力と価値創造に関する特別委員会 議事次第

令和7年5月22日（木）
午後1時30分～
於：第4委員会室

1 開 会

2 中間報告

3 委員会活動のまとめ

4 そ の 他

5 閉 会

文化力と価値創造に関する特別委員会 出席要求理事者名簿

【知事直轄組織・知事室長】	
国際課長	山 本 隆 裕

【農林水産部】	
流通・ブランド戦略課長	加 茂 雅 紀
農産課参事	浅 野 智 士

【文化生活部】	
※ 文化生活部副部長(文化振興担当) (文化政策室長兼務)	梅 原 和 久
※ 文化生活部理事 (ACK・AFK担当)	大 石 正 子
※ 文化芸術課長	松 村 明日香

【教育委員会】	
※ 高校教育課長	小 西 良 尚
文化財保護課長	石 崎 善 久

(計 12 名)

【商工労働観光部】	
※ 観光室企画参事	牧 哲 也
※ 産業振興課参事	足 立 真理子
※ 産業振興課参事	中 原 真 里
染織・工芸課長	草 分 隆 司

* 議事内容に応じ、必要な理事者を適宜追加

※ 新任理事者

令和7年5月 日

京都府議会議長 石 田 宗 久 殿

文化力と価値創造に関する特別委員長 田中 美貴子

文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。

(別紙)

文化力と価値創造に関する特別委員会中間報告書

1 本委員会の設置目的

伝統文化、生活文化などの継承・発展や文化と観光、食、伝統産業、先端産業などあらゆる分野との融合により、新たな価値を創造し、発信するための施策について調査し、及び研究する。

2 本委員会の活動状況

(1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第4委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行った。
- 令和6年6月26日、第4委員会室において、「本委員会の調査事項に関連する施策等について」をテーマに委員会を開催し、関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。また、「今後の調査・研究テーマについて」をテーマに委員間討議を行った。
- 令和6年10月1日、第4委員会室において、通圓茶屋24代当主 通円 祐介氏及び京料理辰巳屋8代目主人 左 聡一郎氏を参考人として招致し、「地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該両参考人から地域文化の担い手の活動などについて、説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第4委員会室において、三河内の曳山行事連合会 会長・地縁法人大道町内会 委員長 村山 周平氏、地縁法人奥地町内会 会長・三河内地区公民館 主事 安達 博志氏及び地縁法人大道町内会 副委員長 倉橋 慶一氏を参考人として招致し、「伝統行催事の次世代への継承について―与謝野三河内の曳山祭を事例として―」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から伝統行催事の次世代への継承について現状や課題についての説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第4委員会室において、立命館大学ゲーム研究センター長・映像学部映像学科 教授 渡辺 修司氏を参考人として招致し、「京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興の取組について」をテーマに委

員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人からゲームの仕組と文化のつながりなどについて説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。

○ 令和7年5月〇日、第4委員会室において、 _____

(2) 管内外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和7年1月28日

調査先：宇治市議会〔現地視察：京都宇治茶房 山本甚次郎〕（宇治市）

調査事項：宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について

宇治市では、市内全小・中学校で実施している小中一貫の特色ある教育活動として、総合的な学習の時間に「宇治で学ぶ、宇治を学ぶ、宇治のために学ぶ」をコンセプトとした「宇治学」を実施している。その内容は、児童生徒が地域社会の一員としての自覚を持ち、「ふるさと宇治」をよく知り、諸課題に対し、主体的・創造的・協働的に取り組むことで、課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質や能力を育成することを目指すものである。

2010年度の総合的な学習の時間の活用から始まり、2012年度から宇治市の小中一貫教育の目玉として位置付けられた。小学3年生から中学3年生までの7年間、年間70時間のカリキュラムで、各担任が自由に取り組めることとされたが、学校間で格差が生じたことなどから京都文教大学に副読本の作成を依頼し、各学年の重点単位として、小学3年生は「宇治茶」、4年生は「自然」、5年生は「福祉」、6年生は「歴史・観光」、中学1年生は「防災」、2年生は「キャリア教育」、3年生は「宇治市への提言」と設定された。端緒となる宇治茶の学びについては、地元の生産者から茶葉の提供などの授業協力が行われており、お茶を飲む学習や生産現場・工場の見学も用意されている。

また、1848年（嘉永元年）に建てられた築170年の店舗兼住宅で「国選定重要文化的景観」に指定されている「宇治茶茶房 山本甚次郎」において、独特の芳香とまろやかで豊潤な風味を併せ持つ貴重なお茶ができる「本ず栽培」や、副読本でも紹介されているお茶を乾燥させる現役で最古の「堀井式碾茶乾燥炉」を用いた宇治茶の生産工程について説明を受けた。宇治においても茶園は減少傾向にあり、後継者が連携して守っていくうえでも宇治茶に関する地域の理解を醸成する宇治学は重要と説明があった。

これからも、探究的な学びから課題解決学習を進め、さらに地域社会との絆を作る文化を活用した学習をさらに進めていくとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月28日

調 査 先：敦賀市議会（福井県敦賀市）

調査事項：和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について

敦賀市は、福井県のほぼ中央に位置し、平安時代以前から大陸との窓口として、また、日本海を北前船が行き来した時代には、「京」や「大坂」の玄関口として栄えた都市であり、令和6年3月北陸新幹線敦賀駅が開業したところでもある。

敦賀は、古来から日本海に面した物流拠点として栄えていたが、流通商品の中でも蝦夷地方（北海道）から運ばれた昆布は、都への献上品であり、当地で加工することにより料理用から菓子用まで様々な商品が作られてきた。中でもおぼろ昆布は、酢に浸し、柔らかくして特殊な包丁で削ってつくる商品で、見た目は透けるように薄く、口の中で溶けるような食感が特徴で、職人の手により一枚ずつ丁寧に削られている。

市では、全国の80%のおぼろ昆布が生産されており、200人ほどの昆布職人が伝統の技で生産しているが、職人数の減少・高齢化が進行しており、産業自体が廃絶の危機にある。

そのため、職人と協力したおぼろ昆布の手すき体験を行うほか、令和4年度文化庁の「食文化ストーリー」創出・発信モデル事業の採択を受け、パリでのPRなど認知の向上に取り組んだ。しかしながら、外国人は強い酢の匂いに抵抗があることや見た目が食べ物に見えないといった意見があるなど、海外展開には、課題が残った。

今後の展開として、おぼろ昆布の生産は、文化財保護の観点だけではなく、産業として維持していくために、新規就労者へ助成する後継者育成支援や、原材料仕入れ等に助成する生産活動支援、食材利用促進などを進めていく必要があると考えている。

こうした中、令和7年1月に開催された国の文化審議会において、敦賀市特産の「おぼろ昆布」を作る際に、職人が専用の刃物で巧みに昆布を薄く削る伝統的な製造技術が評価され、無形民俗文化財として新たに登録するよう文部科学大臣に答申された。答申どおり登録されれば福井県では初、全国では8件目の登録となる。

今後もおぼろ昆布について文化財としての保護と産業政策を組み合わせ取組を推進していくとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月29日

調 査 先：金沢市議会〔於：金沢21世紀美術館〕（石川県金沢市）

調査事項：金沢21世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について

金沢21世紀美術館は、金沢市が金沢城周辺のエリアに整備した現代アート的美術館として、2004年10月に開館して以来、集客力は国内トップクラスで、近年の美術館の集客ランキングではベスト3にランクインしている。

コンセプトは、①「世界の『現在（いま）』とともに生きる美術館」、②「まちに生き、市民とつくる、参画交流型の美術館」、③「地域の伝統を未来につなげ、世界に開く美術館」、④「子どもたちとともに、成長する美術館」の4つであり、④の目標に関連して、「見て」、「触れて」、「体験できる」最適な環境の提供と、子どもの成長とともに美術館も進化し、時代を超えて成長することを目指している。

美術館は、展示作品のある屋外エリアと館内の交流ゾーンは無料で解放しており、市民の交流などの場としても利用できるほか、芸術・文化に関する教室も開催されている。平日に小さな子ども連れで美術館を楽しめるスペースを整備したり、休日には、小学生たちも素材に触れ、作品を制作することを楽しめるイベントも開催される。

11月2日から約4か月かけて、特別プログラムとして「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」が行われ、金沢市内の小学校・中学校・養護学校等全95校の全児童4万人余りが招待された。この事業は、翌年からは子どもたちに対する教育普及活動として、小学4年生を対象に「ミュージアム・クルーズ」として継続されている。五感を通して作品に出会い、触れ合うことで、子どもたちの感受性や創造性、自主性や思考力、表現力等を育むとともに想像力とコミュニケーション力を育てることが目的で、美術館における文化体験を学校教育に生かすことで、子どもたちの“感じる心”をより効果的に育てることができ、これまでに11万人を超える小学生が参加している。

市民ボランティアの協力により運営され、事前学習をしたボランティアがガイドマップを用いて行われている。既に20年が経過したことから、当初の参加者が今は市民ボランティアとして参加するなど、世代を超えた市民参加の運用が定着しており、今後もこうした事業をさらにバージョンアップしながら継続させていくとのことであった。

○調 査 日：令和7年1月29日

調 査 先：石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕（石川県金沢市）

調査事項：石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について

石川県が設置した「いしかわ生活工芸ミュージアム」は、県の伝統工芸品を収集した博物館で、兼六園に隣接している。ミュージアム内には、経済産業省指定の伝統的工芸品10種を含む36業種の作品が展示紹介されており、九谷焼等いくつ

かの工芸品では、製作工程がわかる展示となっている。展示は「衣・食・住・祈・遊・音・祭」に分かれており、伝統と今を結ぶ新しい生活提案も行われている。展示以外にも、工芸品ワークショップや企画展示、コンサート、セミナーなどが開催されている。

令和2年に東京から同館付近に移転した国立工芸館と区別するため、同年4月から、通称を石川県立伝統産業工芸館から「いしかわ生活工芸ミュージアム」に変更した。

令和5年度の年間入館者数は、兼六園が2,140,462人、金沢21世紀美術館が1,974,773人、ミュージアムは、90,938人で、金沢城周辺の文化エリアとして、一体的に観光客等が利用していることを示している。また、隣接する兼六園側にも入口を整備していることも利用者が多い要因である。

ミュージアム入口には、県内の全伝統工芸士の名前を示す木札があり、また、展示品には、購入できるよう値札がつけられている。購入者は、インバウンド客だけでなく、国内観光客も多く、ミュージアムの手数料収入が10%で約1千万円くらいであることから、1億円以上の売り上げとなっている。

伝統工芸に関わる人材育成支援については、金沢市内の産業は金沢市が、それ以外は県が中心に支援している。

今後も、石川県の生活工芸情報の発信や情報提供、また、ワークショップの開催による体験機会の提供に努めていくとのことであった。

3 本委員会の所管に係る主な動き

- 令和6年10月、京都府は、日本茶の歴史を再認識し、お茶に親しむ府民が拡大するとともに、万博を契機に京都を訪れる人々をもてなし、京都のお茶の文化が広く世界に発信する「きょうとまるごとお茶の博覧会2025」を開催した。
- 令和6年11月、京都府は、国立京都国際会館において、「現代アートとコラボレーション」をコンセプトに、現代アートに特化したアートフェアとしては日本最大級の第4回の「Art Collaboration Kyoto」(ACK)を開催した。
- 令和7年3月、京都府は、京都府立植物園100周年記念事業としてアーティストの活躍の場を創出するとともに府立植物園の魅力拡大を図るため、メディアアートプロジェクト「LIGHT CYCLES KYOTO(ライトサイクル キョウト)」を開催した。

4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 文化・観光・経済の好循環に結び付く文化と産業を融合させる取組の推進
- 次世代の子どもたちが、学校教育や地域行事を通じて文化を大切にする心を育てる取組の推進
- 社寺や民俗芸能などの有形・無形の文化財を継承・発展させる取組の推進
- 文化庁と連携した日本文化発信の新たな取組の推進

文化力と価値創造に関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
6. 5. 24	委 員 会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 4	管 内 調 査	▷ 企画展「五彩を感じて 印象の墨の世界」 及び同時開催「第5回京都工芸美術作家展」内覧会 (行催事等委員会調査)
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委 員 会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 今後の委員会運営
6. 14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6. 26	委 員 会	1 所管事項の調査 「本委員会の調査事項に関連する施策等について」 2 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
7. 5	管 内 調 査	▷ 特別展 日本の巨大ロボット群像 —鉄人28号、ガンダム、ロボットアニメの浪漫—特別内覧会 (行催事等委員会調査)
8. 27 ～28	管 内 外 調 査 (中 止)	▷ 宇治市議会 ▷ 敦賀市議会 ▷ 金沢市議会〔於：金沢21世紀美術館〕 ▷ 石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕 ※台風10号の接近により中止
9. 12	管 内 調 査	▷ 生誕140年記念 石崎光瑠 特別内覧会 (行催事等委員会調査)
9. 19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
10. 1	委 員 会	1 所管事項の調査 「地域文化の担い手の活動と現状をめぐる諸課題について」 参考人：通圓24代当主 通円 祐介 氏 京料理辰巳屋8代目主人 左 聡一郎 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
10. 17	管 内 調 査	▷ 京都府立植物園「LIGHT CYCLES KYOTO」内覧会 (行催事等委員会調査)

年 月 日	区 分	主 な 内 容
10.31	管 内 調 査	▷ 「Art Collaboration Kyoto」 オープニングセレモニー (行催事等委員会調査)
11.22	管 内 調 査	▷ 日中平和友好条約45周年記念世界遺産 大シルクロード展 開会式 (行催事等委員会調査)
12. 9	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12.15	管 内 調 査	▷ 令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル (行催事等委員会調査)
12.17	委 員 会	1 所管事項の調査 「伝統行催事の次世代への継承について ―与謝野三河内の曳山祭を事例として―」 参考人：三河内の曳山行事連合会 会長 地縁法人大道町内会 委員長 村山 周平 氏 地縁法人奥地町内会 会長 三河内地区公民館 主事 安達 博志 氏 地縁法人大道町内会副 委員長 倉橋 慶一 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
7. 1.28 ～29	管 内 外 調 査	▷ 宇治市議会 ▷ 敦賀市議会 ▷ 金沢市議会 [於：金沢21世紀美術館] ▷ 石川県議会 [於：いしかわ生活工芸ミュージアム]
1.30	管 内 調 査	▷ 第43回京都府文化賞交流会 (行催事等委員会調査)
2. 8	管 内 調 査	▷ 京のかがやき2025～民俗芸能を未来へつなぐ～ (行催事等委員会調査)
2.14	管 内 調 査	▷ 「カナレットとヴェネツィアの輝き」内覧会 (行催事等委員会調査)
3.13	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
3.17	委 員 会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「京都が培ってきた日本文化の発信とコンテンツ産業の振興 の取組について」 参考人：立命館大学 ゲーム研究センター長 映像学部映像学科 教授 渡辺 修司 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
4.14	管 内 調 査	▷ 特別企画展「伊東深水 時代の美、つややかに」開会式 (行催事等委員会調査)
4.25	管 内 調 査	▷ 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」特別内覧会 (行催事等委員会調査)
5.22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営

年 月 日	区 分	主 な 内 容
5.22	委 員 会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※ 発言内容は別紙のとおり

委 員 会	7回	管 内 調 査	12回 (12日)
正副委員長会	6回	管 内 外 調 査	1回 (2日)

※ 台風 10 号の接近により 8 月の管内外調査を中止し、1 月に実施

文化力と価値創造に関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管内調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 9. 8	▷ 文化庁京都移転記念事業 「きょう ハレの日、」 記念式典
	5. 11. 11	▷ 京都伝統文化の夢舞台
	5. 12. 17	▷ 令和5年度全国高校生伝統文化フェスティバル
	6. 2. 6	▷ 第42回京都府文化賞交流会
	6. 2. 25	▷ 京都・和食の祭典 2024～京の食文化発信～シンポジウム
6	6. 6. 4	▷ 企画展「五彩を感じて 印象の墨の世界」 及び同時開催「第5回京都工芸美術作家展」内覧会
	6. 7. 5	▷ 特別展 日本の巨大ロボット群像 —鉄人28号、ガンダム、ロボットアニメの浪漫—特別内覧会
	6. 9. 12	▷ 生誕140年記念 石崎光瑤 特別内覧会
	6. 10. 17	▷ 京都府立植物園「LIGHT CYCLES KYOTO」内覧会
	6. 10. 31	▷ 「Art Collaboration Kyoto」オープニングセレモニー
	6. 11. 22	▷ 日中平和友好条約45周年記念世界遺産大シルクロード展開会式
	6. 12. 17	▷ 令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル
	7. 1. 30	▷ 第43回京都府文化賞交流会
	7. 2. 8	▷ 京のかがやき2025～民俗芸能を未来へつなぐ～
	7. 2. 14	▷ 「カナレットとヴェネツィアの輝き」内覧会
	7. 4. 14	▷ 特別企画展「伊東深水 時代の美、つややかに」開会式
	7. 4. 25	▷ 特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」特別内覧会

2 管内外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 22 ～23	▷ 福岡市役所[於：Artist Café Fukuoka] ・ 「Fukuoka Art Next」の取組について ・ 施設視察 ▷ 大野城市役所[於：大野城心のふるさと館] ・ 大野城心のふるさと館での先端テクノロジーを使った取組について ・ 施設視察 ▷ 古民家宿泊施設「HOTEL CULTIA 太宰府」 ・ 歴史的資源を活用したまちづくりについて ・ 施設視察 ▷ 山口大学教育学部 ・ 山口大学教育学部・附属小中学校歴食給食プロジェクトについて
6	6. 8. 27 ～28 (中止)	▷ 宇治市議会 ・ 宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について ・ 現地視察（京都宇治茶房 山本甚次郎） ▷ 敦賀市議会 ・ 和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について ▷ 金沢市議会〔於：金沢 21 世紀美術館〕 ・ 金沢 21 世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について ・ 施設視察 ▷ 石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕 ・ 石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について ・ 施設視察 ※台風 10 号の接近により中止
	7. 1. 28 ～29	▷ 宇治市議会 ・ 宇治学による小中学生への文化学習・伝承の取組について ・ 現地視察（京都宇治茶房 山本甚次郎） ▷ 敦賀市議会 ・ 和食文化を支える「敦賀昆布ストーリー」創出・発信事業について ▷ 金沢市議会〔於：金沢 21 世紀美術館〕 ・ 金沢 21 世紀美術館ミュージアム・クルーズ事業について ・ 施設視察 ▷ 石川県議会〔於：いしかわ生活工芸ミュージアム〕 ・ 石川県の伝統文化の普及・啓発、伝承の取組について ・ 施設視察

行催事等に係る委員会調査の結果概要について

文化生活部

行催事等名	主催者名 (招待者名)	会 場 (市区町村名)	年 月 日
特別企画展「伊東深水 時代の美、 つややかに」開会式	京都府、 京都府立堂本印象美術館、 京都新聞	京都府立堂本印象美術館 (京都市北区)	令和7年4月14日 (月)
特別展「和食～日本の自然、人々の知恵～」 特別内覧会	京都府、 京都府京都文化博物館、 朝日新聞社、 MBSテレビ	京都府京都文化博物館 (京都市中京区)	令和7年4月25日 (金)